

平成 31 年度前期選抜における作文の「テーマ（題）」、及び出題の趣旨、
評価の観点ならびに解答例について

1 作文の「テーマ（題）」

次の文章を読んで、「あなたはどのような高校生活を送り、将来どのような人物になりたいと思っているか」について、四〇〇字程度で述べなさい。

伊能忠敬の歩幅は約六十九センチだったそうだ。江戸後期の測量家である。その足で十七年間、九次にわたって日本全土を歩き実測地図を作った。中山道の木曾路に入ったのは一八〇九年のこと。九州をゴールにした第七次測量の旅の往路だった。

「伊能図大全」（河出書房新社）に収録されている木曾路の手書き地図を見た。縮尺三万六千分の一。木曾川に沿って中山道の道筋が赤い線で引かれている。上松の宿駅は赤い線の丸。寝覚の床や小野の滝など名所も記してある。谷の両側の山々は緑だ。

忠敬の地図は測量せずに描かれていたそれまでの絵図とは大きく異なる。道の長さや方位を実測し縮図にした。誤差が小さく当時としては驚くべき高精度だった。忠敬の死後、門弟たちが全土の地図を完成させ、一八二一年幕府に提出した。「大日本沿海輿地全図」（伊能図）だ。

上松町観光協会が山中に埋もれていた旧中山道のルートを見つけた。南北およそ五百メートルの区間。伊能図に描かれた中山道の道筋とびたり一致したというから間違いあるまい。これで町内の旧中山道はほぼ明らかに。外国人の誘客に結び付けたいそうだ。

民俗・日本思想史家の田中欣一さん（白馬村）によれば信州は全国で一番、古道が残されている。特に木曾路は石仏など¹路傍にたたずむ文化遺産が豊かという。伊能図は明治に入っても活用され約百年間²命脈を保った。古道を再発見して生かすのも、忠敬のように息長く取り組みたい。

- 注 ・¹路傍 道のほitori。みちばた。
・²命脈 いのち。いのちのつながり。

（信濃毎日新聞 平成三十一年一月十日「斜面」）

〈信濃毎日新聞著作物使用許諾【許 1901801】〉

2 出題の趣旨

課題文及びテーマについては、次の理由から設定した。

これからの社会は先が見通しにくい時代と言われている。そのような社会において、高校で学ぼうとする人たちには、自ら課題を発見し、思考し、熱心に追究する姿勢を大切にしてほしいと考えている。以上のねらいを踏まえ、受検者の入学後の学習・生活に対する意欲をみたい。

3 評価の観点

次の（１）～（４）の観点から総合的に評価する。

- （１）意欲・主体性
テーマに対して意欲的、主体的に書かれているか。
- （２）読解力
課題文の趣旨が正しく読み取れているか。
- （３）理解・思考力
テーマを理解し論理的にわかりやすく書かれているか。
- （４）表現力
適切な表現で作文の基本をわきまえて書いてあるか。

伊能図により、埋もれていた旧中山道が判明した。伊能図は、日本で最初の実測日本地図として知られる。精度を高めるために、地道な努力と工夫をし続けたこと、地図制作の土台に、伊能の広範で基本的な学識があったという。それゆえこの地図は、当時ばかりか現代でさえ活用できるほど、精緻なものになっているようだ。

待望の地図の完成を見ず亡くなった伊能に、名声や功績ばかりが人生の意味ではないと気づかされた。たとえ周囲に評価されない可能性があっても、信念を貫き通すことは、十分に価値がある。たとえ困難に直面しても、跳ね返す力を生む。その情熱が、伊能の十七年間を支えたのではないか。

伊能は、根気強さと情熱で、現代に続く偉業を成し遂げた。私も貴校に入学し、日々の努力を怠らず、どのような困難にも打ち勝つ強い意志をもち、社会を支えられる大人になりたい。(文字数三六二字)